



大阪・京都教区報

発行責任者 晴久 敬主
主 教 磯 高 地
大阪教区事務所 06-6621-2179
京都教区事務所 075-431-7204
通算号数
大阪492号、京都752号

女性に対する

暴力の根絶を祈りましょう

司祭 アンナ 三木 メイ

皆さんは、サムエル記13章1節から始まる「アムノンとタマル」の物語を読んだことがあるでしょうか。アムノンはダビデ王の長男、タマルは異母妹です。タマルは美しい女性で、アムノンは彼女に近づけず、恋するあまり病気になるいそぎでした。彼にはヨナダブという賢い友人がいて、恋わずらいのアムノンの様子を見てこう提案します。「病気を装って床に就き、父上が見舞いに来たら『妹タマルをよこしてほしい。彼女が作ったものを彼女の手から食べたいのです』と言ったらよい。」アムノンは提案通りに病を装い、見舞いに来た父ダビデに「妹タマルをよこしてください。彼女が作った菓子

を彼女の手から食べたいのです」と言います。ダビデは彼の望み通り、タマルに兄アムノンのところに行くようにと伝えさせます。タマルはアムノンの目の前で菓子を作り、彼に食べさせようとした。しかし、彼は食べようとせず、そばにいた者を皆出て行かせ、タマルを捕えて言います。「妹よ、おいで。私と寝てくれ。」それに對してタマルは「いけません、兄上。私を辱めないでください



とを聞かず、力づくで辱め、彼女と床を共にしました。その後、アムノンは激しい憎しみを彼女に覚えて、タマルに「立て、出て行け」と言い、従者を呼んで「この女をここから追い出せ」と命じました。タマルは上着を引き裂き、手を頭に当てて嘆きの叫び声をあげました。これは紀元前に伝承された物語ですが、現代においても女性や子供たちに対する暴力は世界各地で絶えることなく続いています。特に、性暴力、

11月号の紙面

- ③ 建造物保護のための共同メッセージ
- ④ インターナショナルデー／主教コラム
- ⑤ 教会紹介／常置委員会・局長会議報告
- ⑥ 諸記念／主教巡回予定

性虐待の加害者は、被害者の顔見知りや家族など親しい関係であったケースが多いのです。だからこそ、被害を訴えることが難しい場合も多いようです。

11月25日は「女性に対する暴力撤廃の国際デー」で、この日から12月5日（世界人権デー）までは、「ジェンダー暴力と闘う16日間キャンペーン」の期間です。IAWN（国際聖公会女性ネットワーク）からの呼びかけで、日本聖公会では2011年からこのキャンペーンに参加し、2016年から東京教区聖アンデレ主教座聖堂で、「女性に対する暴力の根絶を祈る礼拝」を行っています。皆さんも、共に祈り求めていきましょう。

（京都教区主教座聖堂付、同志社大学嘱託講師）



「ガバール」

「子どもたちの笑顔に励まされる」
先日障がいを持つ子ども達との活動で、ボランティア達と「明日は晴れる」という歌を歌っていた時、突然熱いものがこみ上げてきました。

私は小児病棟を訪れ、病児を励ます活動を続けてきました。9年前に一人の大学生が癌で亡くなりました。小さな時からキャンプに参加してくれ、とてもやんちゃだった彼ですが、高校3年生で骨の癌が見つかりました。大変な入院治療でしたが、入院中に彼は年下の子ども達に勉強を教えてあげるようになり、ついには「T塾」と名付けて活動するようになりました。我々の活動も患者ながらよく手伝ってくれました。4年間の治療の末、クリスマス直前の寒い日に彼は亡くなりました。その日は私達の活動の日で、私の「明日は晴れる」が聞こえると微笑んでいたそうです。支援に挫けそうになった時、彼や子ども達の顔が浮かんで励まされます。生きる意欲や明日への希望、子ども達への愛情がわいてきます。これは神様の贈り物であると思っています。

（大津聖マリア教会 久保田 展史）

被造物保護のための共同メッセージ

9月1日にカナタベリー大主教、ローマ教皇、東方正教会エキュメニカル総主教の連名で、「被造物保護のための共同メッセージ」(A Joint Message for the Protection of Creation)が発表されました。

3教会による気候変動に関する共同メッセージは初めてのことです。11月1日から12日まで英国グラスゴーで開催されるCOP26(国連気候変動枠組み条約締約国会議)を視野に入れたもので、気候危機の深刻さを伝えようとするものです。私たち自身の生活の在り方を振り返り、大量消費、効率重視、快適さ追求の社会を問い直す機会として受け止めたいと思います。

この1年以上にわたり、貧しい人も裕福な人も、弱い人も強い人も含めて私たち皆が、世界的なパンデミックの壊滅的影響を経験してきました。ある人はより保護され、ある人はより脆弱でしたが、

感染が急速に拡大し、安全を確保するための努力について互いに依存していました。私たちは、この世界的な大災害に直面し、全員が安全になるまで誰も安全ではないこと、私たちの行動が実際に互いに影響し合うこと、そして今日の行動が明日の出来事に影響することを実感しました。

これらの教訓は新しいものではありませんが、私たちは新たにそれらに直面しなければなりませんでした。この瞬間を無駄にしないようにしましょう。私たちは、将来の世代にどのような世界を残したいのかを決めなければなりません。神は命じます。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」(申命記30:19b)。私たちは今までは違う生き方を選択しなければなりません。

9月は多くのキリスト者にとって「被造物の期節」として祝われ、神の被造物のために祈り、配慮する機会となっています。11月にグラスゴー

で開催される世界のリーダーたちによる地球の未来についての討議に向けて、その指導者たちのために祈り、私たちが皆がどのような選択をしなければならぬかを考えます。したがって、私たちは教会の指導者として、信念や世界観にかかわらず、すべての人に、地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、自分の行動を吟味し、神が私たちに与えられた地球のために意味のある犠牲を誓う努力をすることを呼びかけます。

サステナビリティの重要性

私たちの共通の伝統であるキリスト教では、聖書と聖人が、現在の現実と今見えてくるものよりも大きな約束の、両方を理解するために必要な明確な視点を提供しています。スチュワードシップの概念、すなわち、神から与えられた財産に対する個人と集団的な責任は、社会、経済、環境の持続可能性を実現するための重要な出発点となります。新約聖書では、金持ちでありながら愚かな男が、自分の有限の終わりを忘れて穀物を大量に蓄えたことが記され

ています(ルカ12:13-21)。また、放蕩息子が早くに遺産を手に入れたにもかかわらず、それを浪費して飢える羽目になったことを知っています(ルカ15:11-32)。私たちは、共通の家が嵐に耐えられるように岩の上に建てるのではなく、砂の上に建てるという短期的で一見安価な選択肢を採用しないように注意されています(マタイ7:24-27)。これらの物語は、

私たちがより広い視野を持ち、人類という大きな物語の中で自分の居場所を認識するように促しています。

しかし、私たちは逆の方向に進んでしまいました。将来の世代を犠牲にして、自分たちの利益を最優先してきたのです。私たちの富に集中することで、自然の恵みを含む長期的な資産が目の利益のために枯渇することになります。テクノロジは進歩のために新たな可能性を広げましたが、同時に無制限に富を蓄積することも可能になり、多くの人は、他の人々や地球の限界に対する配慮を欠いた行動をとっています。自然は回復力がある一方で、繊細です。

私たちはすでに、自然を守り抜くことを拒否した結果を目の当たりにしています(創世記2:15)。今、この瞬間、私たちに悔い改め、覚悟を決めて逆方向に向かうチャンスです。私たちは、生き方、働き方、お金の使い方において、利己的な利益ではなく、寛大さと公平さを追求しなければなりません。

貧困に苦しむ人々への影響

現在の気候危機は、私たちがどのような人間であり、神の被造物をどのように見ているかを雄弁に物語っています。私たちは厳しい正義の前に立っています。生物多様性の損失、環境悪化、気候変動は、私たちの行動の必然的な結果であり、私たちは地球が耐えられる以上の資源を貪欲に消費してきたのです。しかし、私たちは深刻な不公平にも直面しています。それは、これらの侵害によって最も悲惨な結果を背負っているのは、地球上で最も貧しい人々であり、その原因について最も責任を負っていない人々なのです。私たちは、創造を喜び、すべての人を神の

似姿に創造する正義の神に仕えていますが、同時に、貧しい人々の叫びにも耳を傾けています。このような壊滅的な不正を目の当たりにしたとき、苦悩をもって対応することが、私たちの中に生まれながらにして求められているのです。

今日、私たちはその代償を払っています。ここ数ヶ月の異常気象や自然災害は、気候変動が将来の課題であるだけでなく、生存に関わる緊急の問題であることを、大きな力と大きな人的コストをもって私たちに改めて示しています。広範囲にわたる洪水、火事、干ばつが大陸全体を脅かしています。海面が上昇し、コミュニティ全体が移転を余儀なくされ、サイクロンは地域全体に壊滅的な被害を与え、生活と人生を台無しにしています。水が不足し、食糧供給が不安定になることで、何百万人もの人々が紛争や避難を余儀なくされています。小規模な農業を営んでいる地域では、すでにその傾向が見られます。今日では、高度なインフラであっても、異常な破壊を完全に防ぐことができ

ないのが先進国の現状です。

明日はもっと悪くなるかもしれないと、今、私たちが「神と共に働く仲間」(創世記2:4-7)として、この世界を維持する責任を負わなければ、今日の子どもたちや若者たちは、壊滅的な結果に直面することになるでしょう。私たちは、自分たちの未来が脅かされていることを理解している若者たちの声をよく耳にします。その世代のためにも、目先の利益だけでなく、将来の利益を考え、食事、旅行、支出、投資、生活の仕方を変えていく選択をしなければなりません。私たちは、自分たちの世代が犯した罪を悔い改めます。私たちは、世界中の若い姉妹や兄弟とともに、神の約束にますます応えていく未来のために、献身的に祈り、行動します。

連携の必要性

今回のパンデミックで、私たちは自分たちがいかに脆弱であるかを学びました。社会システムは崩壊し、すべてをコントロールすることはできないことがわかりました。私たちは、これまでのお金の使

い方や社会の仕組みが、すべての人に利益をもたらしていないことを認めなければなりません。私たちは、健康、環境、食糧、経済、社会など、すべてが深く関連している一連の危機にさらされ、弱さと不安を感じています。

これらの危機は、私たちに選択を迫っています。私たちは、近視眼的に利益を追求して危機に対処するか、それともこれを転換と変革の機会と捉えるか、どちらを選択するかという特異な立場にあります。人類を家族のように考え、共通の利益に基づいた未来に向けて協力し合うことができれば、私たちはまったく違った世界に住むことができるでしょう。誰もが幸せになれる人生のビジョンを共有することができ、私たちが共に、愛と正義と憐れみをもった行動を選択することができ、最も弱い立場にある人々を中心に、より公平で充実した社会に向けて共に歩んでいきます。

しかし、そのためには変化が必要です。私たち一人一人が自分の資源の使い方に責任を持たなければなりません。

この道を進むには、すべての教会が被造物への配慮に向けて、これまで以上に緊密な協力関係を築く必要があります。私たちは、コミュニティ、教会、都市、そして国家として、ルートを変え、人々の間にある伝統的な障壁を取り払い、資源の奪い合いをやめ、協力し合うための新しい方法を見つけなければなりません。

行政のトップ、企業の経営、雇用主、資金を運用する人など、より広い範囲で責任を担う人々に対して、次のように提言します。「人間を中心とした利益を選択し、すべての人の未来を守るために短期的な犠牲を払い、公正で持続可能な経済へ移行するためのリーダーになつてください。」

「多く与えられた者には、多く求められる」(ルカ12:48b)。

環境の持続可能性の緊急性、持続的な貧困への影響、そして世界的な協力の重要性について、私たち3人が一緒に考えなければならぬと感じたのは今回が初めてです。私たちは共に、地域社会を代

表して、すべてのキリスト者、信徒、善意の人々の心に訴えます。地球と人々の未来を決めるためにグラスゴーに集うリーダーたちのために祈ります。もう一度、聖句を思い起こします。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」(申命記30:19b)。命を選択するということは、犠牲を払い、自制心を働かせることです。

誰でも、どこにいても、私たち皆が、気候変動と環境悪化という前例のない脅威への集団的な対応を変えるために、役割を果たすことができるのです。

神の被造物への配慮は、献身的な応答を必要とする霊的な使命です。今が正念場です。子どもたちの未来と、私たちの共通の家の未来は、この取り組みにかかっているのです。

2021年9月1日

エキュメニカル総主教

バルトロメオ

ローマ教皇 フランシスコ

カンタベリー大主教

ジャスティン

インターナショナルデー

去る10月17日、インターナショナルデーをおぼえて、大阪教区の各教会での主日礼拝にて「インターナショナルデーの祈り」がささげられました。

この祈祷文は「外国人との共生を目指す関西キリスト教連絡会(外キ連)」の代表者会議にて、教派を超えたすべての教会で用いるために、祈りの言葉一つひとつが丁寧に紡がれ、聖霊の導きによって創り上げられたものです。互いの声を丁寧に聴き合い、祈り合い、対話によって生み出された、まさに多様性の一致を願うにふさわしい祈祷文です。

インターナショナルデーは20年以上前から「国際協力の日」として定められており、在日コリアンの方をはじめ、外国にルーツを持つ方が年々増えている大阪の地において、多様な文化や風土を分かち合うことを目的として催されています。例年であれば、インターナショナルデーには主日礼拝のあとに、カトリック玉造教会に集い、模擬店を

出し合ったり、ダンスを披露したりする実り豊かなひと時を大勢の人たちと共に過ごします。

昨年、今年と新型コロナウイルスの影響を受けて一つの場所に集まる企画は中止となりましたが、一つの処に集まらないからこそ、例年以上に、外国にルーツを持つ方々との共生について、祈りのうちに思いを深めました。

その一環として9月27日には、オンライン学習会を開催しました。講師の田中恵子さん(大阪にある難民との共生ネットワークRAFIQヘラフィック)共同代表から「日本における難民の生活と支援の実態」に加えて、「アフガニスタン難民の現状」についても学びました。現在も、大阪教区のホームページから学習会の動画を視聴できますので、ぜひご覧ください。

日本における難民支援の実態について知れば知るほど、自分自身も含めて日本に暮らす人のほとんどが、難民と呼ばれる方々の痛みに関心すら持とうとしない人という現実を突き付けられ、大きな

ショックを受けます。「難民」と聞くと、「危ない人」とか『国籍国を追われて逃げてきた人』というイメージを持つ人がいるけど、けっしてそうではない」というのは田中さんの言葉です。

人種や宗教など、「違いの豊かさ」を享受しあうことがかなわず、人間としての尊厳を

失い、着の身着のまま活路を求めて日本にやってこられた方々の想いを、わたしたちはどのようにして受け止めることができるのでしょうか。

難民の方々だけではなく、宗教、出自など、その他さまざまな違いを持つ方々と出会うときにその違いを尊敬し、ともに大切にしようことが、

テレビの朝のワイドショー、バタバタしながら横目で見るのですが、動物のかわいいしぐさの動画が毎日紹介されます。ある日、全然かわいくない動画の紹介がありました。犬が、それも野良犬?が牙をむき出しにし、相手をにらみつけ、「うー」とうなっています。ただ、次の瞬間、何事もなかったかのように穏やかな顔つきになりました。そしてもう一匹の犬が写り、多分初めの犬をにらんで最大限の威嚇をしていますが、こちら

間には何かあると相手から攻撃されないので、今にも噛みつくぞというすごい顔でにらみつけ、次に間の物がなくなるのと、「何にも怒ってないし」という、しれーつとした顔になる。「私はこんなに穏やかで優しいんだよ。こんな私に噛みつく人はいないよね」とでも言ってい



らくだの困い

「多文化共生社会」の実現に向けた第一歩となると確信しています。今回のインターナショナルデーに関わるすべての事柄が神に用いられ、豊かな実りを結ぶことができますように心を合わせてお祈りいたします。

(司祭 成岡 宏晃)

安全でないときには本音を出さない。すぐ考えさせられる映像でした。相手からは見えない心の中では別の思いを持って相手をにらんでいる、そんな自分の姿を見せつけられるようでした。イエス様は危険の中でもなすべきことをなし、十字架への姿勢を崩さず、それで私たちは大きな救いを得たはずなのです。

先日相方に、「もう66やけど、見えへんやろ」と言いましたら、「えー、ちゃんと66やし」とのこと。この時、柵は開いていたと思います。(京都教区主教 高地 敬)

教会紹介 京都編

高田基督教会

1887年7月設立、1889年2月に現聖堂前半部が献堂され、1923年後半部が増築されほぼ現在の形となる。ハンマービームトラス工法で大きな空間を造り出し、木造で漆喰壁が柔らかい音色を響かせる。

2018年2月、奈良県指定有形文化財となり、広く県の宝として人々に公開できるよう考えているが感染拡大防止のため、現在は演奏活動やコンサート等は開催されていない。

礼拝堂の響きを様々な楽器演奏を通し、人びとの癒しの場となり、宣教の器として用いられるように願い整備を続けている。

(司祭 大敷 義之)



京都教区

【常置委員会報告】10/6(臨時)

- 1. 協議事項
・定期教区会に提出する教区ビル関連の議案について協議した。
・検証報告書作成チームからの概要報告を、常置委員会からの報告として要項に入れることとした。また検証報告書が完成したときには、臨時教区会を開くことを確認した。

1. 報告事項 10/18(定期)

大阪教区

【常置委員会報告】10/5(定期)

- I. 主教報告及び諸報告
* 10月6日(水) 大阪聖三一教会建替えのための起工式。
* 10月12日~14日主教会開催(札幌キリスト教会)。
* 10月16日(土) 大阪聖アンデレ教会礼拝堂聖別1周年感謝礼拝。
* 次回の中日本宣教協働区協議委員会(大阪教区が幹事)は11月12日(金)に延期になった。

【コロナ関連対応について】

▼主教報告
・東舞鶴聖パウロ教会の礼拝堂の建物を(学)京都聖パウロ学園に無償貸与することについて、建物使用貸借契約をシオン幼稚園の新園舎建築期間中、教区と学園の間で結ぶ。

・主教座聖堂の休日の案内ポランテアについて、マニユアルや報告書の整備も含めて検討していく。また補修の必要な箇所についても考えていく。
▼「中日本宣教協働区」協働委員会

・10月1日の緊急事態宣言解除を受けて、主日礼拝・聖餐式の公開中止を解除する旨の主教メッセージを出した。

【宣教局】10月17日のインターナショナルデーはコロナ禍で開催困難のため、「祈り」を作成し「外国人住民基本法」と「人種差別撤廃基本法」の制定を求める国会請願書への署名を求める。

【財政局】9月の財務委員会で「2021年度各教会教区費分担金」の1カ月分減額、「2022年度各教会教区費分担金」2021年度

役員MLにて送付した。
2. 協議事項
・定期教区会常任委員を選任した。

・2021年度教区経常費収支、中間および年間見込みの報告、および教区経常会計2022年度予算(案)について承認した。
・特別財産運営委員会会計2021年度決算見込みおよび2022年度大枠予算(案)について、承認した。(文責・常置委員会書記)

1. 総務局報告
▼第17(定期) 教区会の準備

で申請の出ている教会補助金を全額支給することについて確定した。その内容を本常置委員会で承認した。

【総務局】11月23日の教区会は今のところ対面での開催とする。
【OK運営委員会】合併議案可決後に「合併準備事務局」へ申し送る事項をまとめている。

・ニュースレター第5号は10月中旬頃に発送予定。
・各教会への訪問説明会を継続している。
II. 協議事項及び主教諮問
* 教区会に上程する議案「大

とスケジュールの確認を行った。

2. 宣教局報告
▼教育部は今年度の活動をふりかえり、今後の教育部の活動について話し合った。(10月5日)
3. 財政局報告
▼2021年度教区経常費収支月次報告(9月30日)
▼9月25日第2回財政局会議が行われた。
4. 協議事項
▼定期教区会の会議録作成について協議した。
▼2022年度の各局局長候補について意見交換した。(文責・局長会議書記)

阪教区と京都教区の合併に関する件」「2022年度大阪教区一般会計予算案」について協議し確定した。

* 教会委員会選挙のための現在堅信受領者の定義について、10月開催の主教会での協議とする。
* 宮本憲神学生の夏の実習の代わりに、秋季にいくつかの教会を訪問することとする。

* 来季の3局長の人事について協議した。



大阪教区関係教役者 12月逝去者記念聖餐式

12月8日(水) 10:30~

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ(1930年英)
- 2日 主教 チャニング・ムーア・ウィリアムズ(1910年米)
- 4日 司祭 テモテ 山本 登(2009年)
- 13日 司祭 ジョン・キャリア・アンブラー(1946年米)
- 16日 司祭 尾形 虎三(1945年)
- 17日 司祭 アーサー・ラザフォード・モリス(1912年米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン(1926年英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ(1888年英)
- 19日 司祭 ダニエル 小池 虔二(2014年)
- 22日 伝道師 清田 海一郎(1904年)
- 司祭 近重 利澄(1934年)
- 27日 司祭 ヘンリー・レナード・ブレビー(1942年英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明(1928年)
- 29日 司祭 マルコ 伊墻 八東(1978年)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー(1970年英)

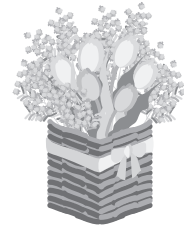
京都教区関係逝去教役者 12月記念聖餐式

12月15日(水) 10:30~

- 2日 主教 C.M.ウィリアムズ(1910年)
- 6日 司祭 尾形 虎三(1945年)
- 10日 司祭 ゼームス 吉村 大次郎(1943年)
- 12日 司祭 ヨハネ 加納 重朗(2015年)
- 13日 司祭 J.C.アンブラー(1946年)
- 18日 司祭 J.J.ロイド(2018年)
- 19日 司祭 A.D.グリング(1934年)
- 22日 司祭 近重 利澄(1934年)
- 25日 司祭 堀内 穰(1951年)
- 29日 司祭 ヨハネ 上堀 恒三(1989年)

逝去年月日不明

- 司祭 勝木 喬
- 執事 木村 義治
- 司祭 袋井 久之丞



*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第3水曜日午前10時30分から、聖アグネス教会で行われます。

奈良基督教会
ヨハネ 山本 保彦
(9月5日)

逝 去 者

大阪聖パウロ教会
ルツ 橋井 政美
(5月29日)

京都聖マリア教会
ルカ 石井 智子
(10月24日)

ソフィア 箕浦 帆ノ夏

エリザベト 角 淑恵

大阪聖パウロ教会
ペテロ 角 周平
(10月17日)

八木基督教会
ルカ 谷 一正
(10月3日)

大阪城南教会
ツイポラ 高井 咲紀
(8月22日)

堅 信

京都聖マリア教会
ルカ 石井 智子
(10月24日)

石橋聖トマス教会
アンデレ 大波 慧真
ペテロ 大波 朔真
(10月17日)

ソフィア 箕浦 帆ノ夏

エリザベト 角 淑恵

大阪聖パウロ教会
ペテロ 角 周平
(10月17日)

八木基督教会
パウロ 岸田 善輝
(9月26日)

大阪城南教会
ツイポラ 高井 咲紀
(8月22日)

洗 礼

10月中旬発売

聖公会手帳 2022年版

※2022年度教会暦・日課表を完全収録
※高表紙に重文字で「日本聖公会」と明記
※祈りの言葉を大編纂し、利便性を更に追求

大型判 2,200円(税込)
ポケット判 1,200円(税込)

お申込みは、バイブルハウス南青山店まで
(03)3556-7190
※インターネットによる注文も可

●大 阪
5日 堺聖テモテ教会
12日 恵我之荘聖マタイ教会
19日 芦屋聖マルコ教会

●京 都
5日 八木基督教会
12日 加悦聖三一教会
19日 八木基督教会

26日 大阪聖愛教会(堅信式)

主教巡回予定(12月)

魂の平安をお祈りします

桃山基督教会
ルツ 木村 多恵子
(10月10日)

ヨセフ 持永 正治
ニコラ 山本 郁男
(10月23日)

金沢聖ヨハネ教会
ハンナ 越智 榮子
(9月26日)

パウロ 村本 準
(10月28日)